資料２

企画展「輝いていた 60’s―1960 年代のスポーツと生活文化―」の開催結果について

令和2年7月24日
鳥取県立博物館

展覧会名　企画展「輝いていた 60’s―1960 年代のスポーツと生活文化―」
会　　期　令和2年6月6日（土）から同年7月5日（日）まで、29日間
会　　場　鳥取県立博物館　第1・第2特別展示室

1　事業概要

東京 2020・東京でのオリンピック開催を機に、アジア初となった前大会（昭和39・1964年）を振り返り、日本と鳥取県の1960年代の出来事、当時の生活資料を展示紹介した。当館所蔵資料に合わせて、個人蔵の東京オリンピック関係資料、日本有数の昭和家電コレクターである冨永潤さん（三重県伊賀市・昭和ハウス館長）のコレクションをあわせて、大型資料の展示やジオラマを製作して、ひと昔前の豊かな時代「昭和」を体感していただいた。新型コロナウィルス感染症による警戒期間であったが、来館者のツィッター投稿により SNS 上で評判となったり、冨永館長のユーチューブでの発信効果もあり、目標を上回る入館者数があった。

2　開催結果

（1）展覧会入館者数

４，565人（目標3，000人）

（2）関連事業参加者

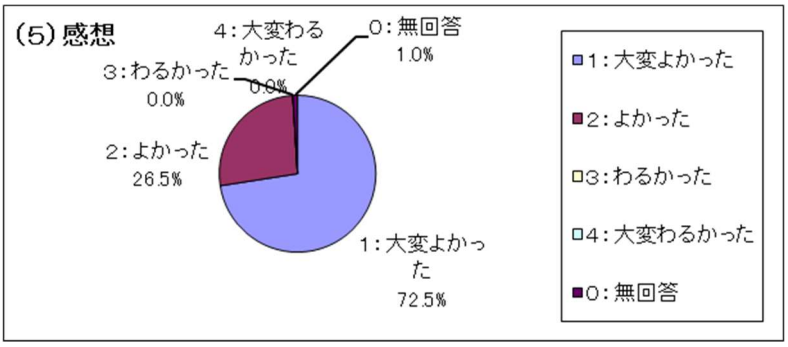
歴史講座「昭和ハウス・冨永館長の昭和レトロ講座（1）」	（6／7）	20人
講演会「鳥取県のオリンピアン―陸上競技選手を中心に―」	（6／14）	65人
講演会「オリンピックがくれたもの」	（6／21）	20人
歴史講座「60 年代の鳥取市街地をぶらり」	（6／28）	15人
歴史講座「昭和ハウス・冨永館長の昭和レトロ講座（2）」	（7／5）	25人

3　結果・反響

（入館者アンケートから：回答数102人）

（1）展覧会満足度

「大変よかった、よかった」の回答が全体の約99％と、入館者の高い満足度を示した。



（2）感想（主なもの）

・祖父母、両親から聞いていた 1960 年代や東京オリンピックの話を思い出しながら鑑賞しました。
・オリンピックの運営や進行に興味があったので、資料や地図がたくさん展示されていてよかった。そして出場選手の寄贈資料で実際の体験を知ることができてよかった。
・展示点数の豊かさと希少さに感動しました。オリンピックの展示では、鳥取県からも多数関っていて、とても誇りに思えた。

・オリンピックの展示だけでなく、60 年代の生活文化を実感できる展示をされたことが懐かしい気持ちになり、さまざまな思い出が甦って楽しかったし、うれしかったです。
・展示品がバリエーション豊かでおもしろすぎました！！オリンピックだけでなくカルチャー、当時の日常生活、建築と、よくばりすぎるくらい密度が濃くて本当に楽しかったです！！
・東京オリンピックをひかえてる今、前回の東京オリンピックの様子を資料を通してくわしく知ることができ良かった。最後の方の県民参加型企画もユニークで良かった。展示品を通しそれぞれの思い出や家族のストーリーが知ることができたのが、ほほえましい気持ちになり印象に残った。
・クイズラリーが楽しいです。撮影も OK なところがあるという点も良いです。

4　反省

会期中に県外移動が可能になり、広範囲から来館者が訪れたが、新型コロナウィルス感染症拡大防止対策の試行時期であり、対応が難しかった。

写真

公式ポスターの展示

東京オリンピックの展示

鳥取県出身のオリンピアンの展示

昭和の自動販売機の展示

昭和の自動車の展示

昭和のテレビ受像機と茶の間の展示

テレビ受像機と台所用品の展示

歴史講座「昭和ハウス・冨永館長の昭和レトロ講座」

講演会「鳥取県のオリンピアン」

講演会「オリンピックがくれたもの」

企画展「こんにちは変形菌！　とってもふしぎな生きものです。」の開催結果について

令和2年11月10日
鳥取県立博物館

展覧会名　企画展「こんにちは変形菌！　とってもふしぎな生きものです。」
会　　期　令和2年７月18日(土)から同年８月30日(日)まで、44日間
会　　場　鳥取県立博物館　第1・第2特別展示室

1　事業概要

変形菌をより多くの人に知ってもらうため、形態の多様性や体のつくり、ふしぎな生態を紹介した。また、南方熊楠や昭和天皇など昭和初期の変形菌研究のようすや、近年の理工学分野への利用なども紹介した。また、来館者が巨大な迷路に入り変形菌の動きを理解する体験など、楽しく学べる工夫をした。

コロナ禍の中であり、関東方面からの資料借用ができず、前回の協議会でご案内した展示構成を変更して、動画や大型写真などを多数導入してビジュアル重視の展示に再構成した。

同様に新型コロナウィルスの影響で来館者の減少や講堂への入場人数の規制、ワークショップの定員減などの影響もあったが、目標を上回る入館者数があった。

2　開催結果

(1)展覧会入館者数

10,455人(目標8,000人)

(2)関連事業参加者

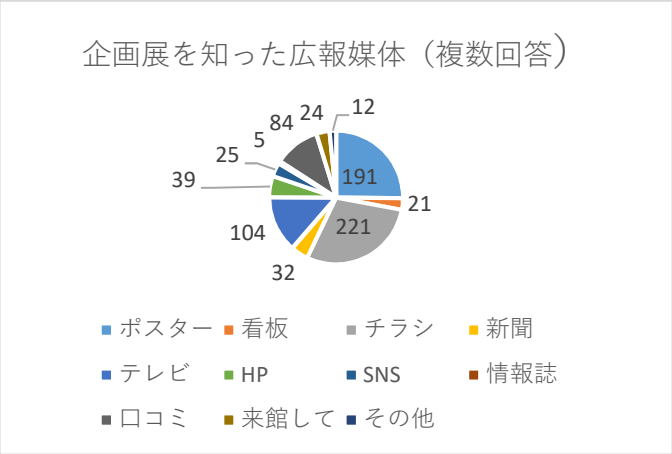
講演会「ときめく変形菌」「単細胞の賢さを探る」　(7/25)125人(定員減により講堂満席)
自然講座「リアル変形菌フフィギュアをつくろう」　(8/1)　36人(美術ワークショップとコラボ)
講演会「トークライブ　世界は変形菌でいっぱいだ　フシギとカワイイ変形菌のお話」(8/2)100人

3　結果・反響

(入館者アンケートの回答数534人)

(1)展覧会満足度

アンケートでは「大変よかった」65.5%、「よかった」33.9%、「わるかった」0.6%の回答を得た。わるかったの理由は「難しかった」「専門的すぎる」などであった。



(2)企画展を知ったメディア

会期初日に442名、二日目に862名の入場があり、また前売り券の販売も良好であったことから事前の広報がうまくいったと考えられた。アンケートからポスター、チラシ、テレビなどの媒体がより効果があるように思われた。テレビCMは変形菌の子実体形成などの動画を用いて制作した。

(3)来館者の属性

・講演会の日を中心に日本変形菌研究会の会員やいわゆる変形菌ファンが多数、遠距離からも来館があった。

・観察会や合宿で採集した変形菌の標本を見るために採集者やその家族の来館があった。
・カップルでの来館が通常の展示より多く、手をつないで展示を見る姿が見られた
・アンケートや展示室内の会話では「きれい」「カワイイ」などの言葉が聞かれ、美的な感覚で展示を楽しむ人々も多かった。
・新型コロナウィルスの感染拡大を回避するためか団体での入館は少なかった。

(4)感想(主なもの)

・はじめて変形菌というものを知ることができた。(多数)
・日常は意識しない生きものだが、身近にもいることがわかった。(多数)
・変形菌が迷路を解くことに驚いた。(多数)
・写真が素晴らしく、自分でも探してみたいと思った。(多数)
・知らない世界でしたが、これからの生活にワクワクが見つかりそうな展示でした。
・久々に、衝撃的でした。美しい！！これから関心を持とうと思います。
・コロナの中、開催できて本当によかったです。楽しみにしていました。(東京都)
・気持ち悪かったけど、為になった。奥深くカワイイと思い始めた。
・大型写真を使った第2室の展示構成が素晴らしかった。
・変形菌という生物の生態、美しさ、子ども達や研究者の研究素材としての面白さがわかった。
・小学生の研究が素晴らしかった。
・*乾燥標本ではなくて生のきれいな色の変形菌も見たかった。*
・*虫めがねもいい工夫だったけれど、顕微鏡を覗いたりするような展示がほしかった。*
・*スタンプラリーやクイズのような、子ども向けの展示がほしかった。*

4　反省・振り返り

・展示の案内役として変形菌の妖精を登場させた。パネルでは長い文章になる事柄を短い言葉で端的に伝えることができた。また、来館者にとっても親しみやすい展示となった。
・看視員の努力で会期中に、質問への対応が大きく向上した。感謝している。
・今となれば、コロナ禍の中でも工夫次第で実現できた体験型の展示がいくつかあり、少々残念である。

写真

ジクホコリの1000倍模型

動画による展示

第2室の展示レイアウト

開館時の第1室

昭和天皇と南方熊楠コーナー

開館時の第2室